東方遠征（茨城県）

早稲田大学１年　春日　祐真

皆様、お久しぶりでございます。3 月で卒業した身でありながら、駄々をこねて寄稿させていただけることになりました（後輩ありがとう）。とはいっても、北大とか九大のような遠くの大学に通っていればその地での鉄道について語れば良いのですが、筆者は現在東京にある大学に通っているので特に書けることもありません。せっかくなので、卒業後に出かけた小旅行について書きたいと思います。

さて、ここからが本編です。今日は茨城の東側、すなわち太平洋沿いのあまり行かない側を攻めようという旅になります。親に頼んでひたち野うしく駅まで車で送ってもらい、ここから旅スタートです。春休み期間（要審議）ということで、茨城県ではつくばエクスプレスを除いたすべての路線に乗る事ができる「ときわ路パス」を利用する事ができます。今回はこれで安く県内を巡ることにしました。

まずは土浦駅までいつもの常磐線で移動します。日曜の朝だったので混んではいませんでした。4 人がけのボックス席を 1 人で優雅に使い、土浦へ向かいます。常磐線はイメージに反してやたらと駅間が長いので、思ったよりも移動に時間がかかります。座っていれば大したことのない時間ですが、部活終わりでヘトヘトの状態で立ったまま帰るとなると相当しんどそう…。



土浦に到着したところで、新たに特急券を買います。ときわ路パスはあくまでも乗車券なので、特急に乗る時には別で特急券を買う必要があります。一旦改札の外に出て 3 年間見慣れた景色をしみじみと思いながら、特急券を購入します。

乗車するのはひたち 3 号です。見慣れているとはいえ、乗るのはこれで二度目くらい。なんなら前回の記憶がほとんどないので実質初めてです。適当に確保した座席に座り、勝田へ向かいます。シートは柔らかく、リクライニング付きなのでゆったりと過ごす事ができました。





勝田からはひたちなか海浜鉄道に乗車します。日曜日だったからか、それなりに人が乗っていました。ロングシートの端の方に座って、勝田から阿字ヶ浦まで乗り通します。ひたちなか海浜鉄道は駅名標がとてもユニークで、文字の中にその駅周辺の名所や名物を組み込んでおり、退屈しないデザインになっています。



終点の阿字ヶ浦駅にはキハ 222 など、国鉄時代の古い車両が留置されています。現在は車内に入ることはできませんが、外から様子を見る事が



できます。今は何故か御神体として祀られているようです。廃材となったレールで組まれた簡素な鳥居が前に建てられています。駅前には何にもないので、何かの話題作りを狙ったのかもしれません。

さて、乗ってきた列車の折り返しに乗って再び勝田へ向かいます。自然の中をトコトコと走った列車は、定刻通り勝田に到着しました。次はお隣の水戸から鹿島臨海鉄道大洗鹿島線に乗るため、常磐線で水戸まで移動します。鹿島臨海鉄道は茨城の海岸に沿って走る鉄道で、爆音のディーゼルカーが走っています。途中駅には大洗駅があり、ガールズ&パンツァー、いわゆるガルパンの聖地となっています。





乗車した列車の中にも明らかなガルパンファンがいました。大洗駅で下車しましたが、筆者はガルパンのことを全く知らないので、大洗駅にあるフォトスポットも何のキャラかわからず…。とは言っても大洗はガルパンだけの街ではありません。大洗といえばやはり海鮮料理でしょう。大洗マリンタワーの近くにある海鮮のお店まで駅から歩きます。海岸までの道は綺麗に舗装されており、どうやら最近補修したようで歩きやすくなっていました。道路沿いの店にはガルパンのポスターがたくさん貼ってあります。中には「ガルパンありがとう」的なことまで書かれているものも。町おこしの一環として大いに貢献したガルパンのことを、大洗町の人々も割と好意的に受け入れてくれているようです。

今回訪れたのは「浜っこ食堂　お魚天国」さんです。名前の通り海鮮をメインにした料理が食べられます。ちょうどお昼時だったので 10 人ほどが待っていましたが、回転効率は良くすぐに席が空きました。今回頼んだのはまぐろづけ丼。味が染み込んだ赤いマグロの刺身はとにかくご飯が進むもので、あっという間に完食しました。





食後は暇だったので大洗港の周辺を彷徨いてきました。大洗港の先端にはそのまんまの名前の大洗港先端緑地公園があり、海風を受けながらゆっくり過ごす事ができます。この日は苫小牧と大洗を結ぶ大型フェリーのさんふらわあ号が停泊しており、近くからその大きさを眺める事ができました。公園で一休みしたところで、行きと同じルートで大洗駅まで戻ります。





左：よくわからないが古墳のキャラクターらしい。可愛いね。

右：野生の四国めたんが働いており、神でした。

大洗駅からは再び鹿島臨海鉄道に乗車します。鹿島臨海鉄道は実はここからの方が距離が長く、水戸から大洗まではそこまで離れていません。大洗から鹿島までは駅間の長いゆったりとした区間が続きます。臨海鉄道といってもそこまで海が見えるわけでもなく、どちらかというと森やトンネルの中を通る事が多いので、景色を眺めるには不向きかもしれません。一般の方は ONICHA のような時間を過ごすことになるでしょう。

列車は爆音でディーゼルエンジンを唸らせながら鹿島神宮駅に到着しました。厳密に言えば鹿島臨海鉄道の区間は鹿島サッカースタジアム駅までですが、この駅は試合がある時のみ営業する臨時駅であるため、鹿島サッカースタジアム～鹿島神宮間は JR 鹿島線に乗り入れという形をとっています。



さてここからはその JR 鹿島線に乗ります。現在使われている車両は E131 系です。黄色と水色の組み合わせが特徴的な可愛らしい電車です。レモンソーダとかそういう系の色合いで、爽やかな雰囲気があります。この電車に乗って佐原まで行きます。



JR 鹿島線は香取駅が起点となっていますが、佐原まで直通運転を行っています。接続上香取でも佐原でも同じだけの待ち時間が発生するため、今回は佐原の歴史的な街並みを簡単に観光することにしました。鹿島神宮駅を出た列車は、霞ヶ浦の東側に位置する北浦を横断します。横断といってもだいぶ南側の細くなっている辺りですが、それでも 1236m もある北浦橋梁を通過します。水面に光が反射してとても綺麗でした。



北浦を越えると、列車は潮来や香取を通って終点の佐原に到着しました。佐原には小野川という細めの川が流れており、その両岸には水郷としての伝統的な街並みがあります。地図作りで有名な伊能忠敬の旧宅や川を小舟で巡るツアーなどもあり、落ち着いた雰囲気を楽しむ事ができます。が、今回佐原での滞在時間はわずか 30 分。駅から小野川まで徒歩で約 10 分かかるので、往復だと 20 分かかります。そのため佐原に到着すると同時に小野川まで軽く走ることになってしまいました。落ち着いた雰囲気を楽しみたかったので、次はゆっくり訪れようと思います。



街並みは川と石垣と柳と木造住宅の組み合わせが和を感じられてとても良かったです。お店ではお餅とかお菓子のような小腹が空いた時に少し食べるものが結構売っていたので、長めの滞在時間でも問題なさそうです。

さて、再びランニングをして佐原駅に戻ってきました。ここからは総武本線に乗って成田へ向かいます。ただし、今回使用している切符は「ときわ路パス」ですので、香取から先は千葉県となりパスの範囲外となります。無理やり繰り越して乗ることはできるので、とりあえずそのままいつも使っている PASMO で改札に入ります。

やってきた列車は 209 系。そこそこ混んでいたので、ボックス席の裏にある小さな席に座りました。思ったよりも佐原～成田間は時間がかかり、その上風景も林か田んぼしかないので退屈でした。209 系のモーターの駆動音と車輪の音を聞きながら本を読んで時間を潰します。

成田に着くと、日も傾いてきて西の空がオレンジ色に染まっていました。綺麗な夕日を見ながらホームを移動し、成田線の列車に乗り換えます。総武本線とは変わってこちらはガラガラでした。ロングシートの真ん中に座ってグミを食べながら、列車にコトコトと揺られていました。

成田線の終点の我孫子駅に到着したところで、時刻は午後 5 時半を過ぎた辺り。お腹も空いてきたので、せっかく我孫子に来たのだからとホームにある立ち食い蕎麦屋に行きます。名前はもちろん弥生軒です。定食屋ではないですよ。確か筆者が高校一年生の時に鉄路の記事に書いた覚えがあります。お持ちの方はぜひ確認してみてください。3 年ぶりくらいにここの唐揚げ蕎麦を食べたのですが、味は以前と変わらず美味しかったです。そして初めて知ったのですが、どうやら唐揚げを単品で頼み持ち帰る事ができるようです。今度家でここの唐揚げを食べるためにやってみたいと思います。

蕎麦を食べて満足したところで、常磐線に乗り込み取手を目指します。蕎麦を食べ終わる間際に出発しやがったので、15 分くらい風が強い我孫子駅の冷たいホームで待たされました。辛いです、常磐線が好きだから。

常磐線もそこそこ混み合っていましたが、そんなに時間はかからないので立って取手へ向かいます。取手からは関東鉄道常総線に乗るのですが、この路線はときわ路パスが使えるので、駅員さんに見せて改札を通り抜けます。ホームには既に二両編成のディーゼルカーが居座っていました。二両ともロングシートなので、適当な位置に座って発車を待ちます。

列車はエンジンを唸らせてすっかり暗くなった街の中を走り抜けます。外と中の明るさに差がありすぎるが故に外の景色も全く見えず、今列車はどこを走っているのだろうかと不安になるような、そんな独特の雰囲気があります。

特に何事もなく守谷に到着した列車から降りて、つくばエクスプレスに乗り換えます。これに乗ると最寄り駅が近づいてきた安心感と、旅の終わりを予感させる寂しさが身に染みますね。無事最寄り駅に到着して、今回の旅は終わりとなりました。

さて、いかがでしたでしょうか。せっかく OB として書かせていただくので何か面白いことでも書きたかったのですが、私の足りない頭では何も思いつきませんでした。仕方ないので 3 年間全ての部誌に書いてきた旅行記をもって、土浦一高鉄道研究部としての活動を終了させていただきます。これを読んでくださった皆様、お世話になった顧問の先生方、なぜか毎年うちの部誌をもらってくれた生物科の T 先生、ありがとうございました。